



小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	姫路医療生活協同組合	代表者	荻野 俊夫	法人・事業所の特徴	法人として、誰もが住み慣れた地域で「その人らしく、気持ちよく生きる」を理念とし、地域共生社会づくりにチャレンジします。そしてご利用者様を中心とした介護と医療の一体化したサービスの提供をめざします。当事業所としては住み慣れた地域で過ごして頂ける様、柔軟なプランを検討。ご利用者様のニーズに迅速に対応できるよう努めています。ご利用者様お一人おひとりの思いに寄り添い、第二の家と思って頂ける様、スタッフ一同取り組んでいます。その為にスタッフのスキルアップを図る研修に参加、毎月の研修を行っています。地域の中に溶け込んで行ける、ここがあって良かったと思って頂ける城北を目指しています。
事業所名	小規模多機能ホーム 城北	管理者	小田 衣織		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	2人	人	人	2人	人	1人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者様を理解した上で職員全員が家族様とある程度の連携が取れるようにする。	具体的な対応を細かく伝えていきその体制に慣れ、電話対応だけでなく送迎時の対応等ケアマネへの連絡も含めて連携が取れるようになってきている。	事業所評価にて、取り組みを確認した。	職員のモチベーションを図ると共にできるだけ余裕を持って業務にあたるように業務内容や担当を考慮する。
B. 事業所のしつらえ・環境	夏祭りを恒例行事化していく。地域の方が気軽に立ち寄れる環境作り。	コロナの関係で夏祭りな事業所のイベント等も実施することができなかった。	畑の一部が整備できていない事を指摘を受ける。	地域住民の方々の方が訪問しやすい環境を整える。畑や建物周りの整備等。
C. 事業所と地域のかかわり	小規模城北を近隣住民の方々にもっと知って頂き介護の相談や情報提供をして頂ける様、窓口としても機能していく。	今年はコロナの影響でいつも来て頂いているパン販売も一時中止となり相談に来られる方もほとんどいなかった。	校区内の小、中学校と協働できることがあればいいと思う。(認知症啓発など)	コロナ禍での地域の中の小規模の在り方を考える。出来る事をする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域のイベント等参加できるものは参加させて頂く。	今年はコロナで地域のイベントがすべて中止になり地域と関わることができなかった。	少しコロナが落ち着いたら近くの大学のカフェが席等も密ではなくおすすめで教えて頂く。	コロナの影響等考え出来る事をする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	職員も順番に参加してもらう。	運営推進会議も予定の半分くらいしか開催できず、スタッフも余裕がなく参加できず。	認知症サポーター養成講座の開催(自治会、地域包括と協働で)	職員に順番に参加してもらう。

F. 事業所の 防災・災害対策	色々な場面を想定しての避難訓練が必要。	火災だけでなく地震や不審者対応など、訓練の幅を広げる事ができた。	不審者対応はこれからの時代必須だと思う。拡声器を買う事をすすめられる。	防災担当を決め、月1回何かしらの訓練を計画している。
--------------------	---------------------	----------------------------------	-------------------------------------	----------------------------